大 谷 教 師 塾

教員養成ナビゲーター

第９６号 発行日 2011.10.5

大谷大学教職支援センター

目次：

●コンプライアンスと危機管理 1

●「これは？」と思ったら来室を 1

● “自覚と覚悟” 2

この時代に先生になろうと思う人は，きっと心のまっすぐな，とても素晴らしい人だと思います。

●出会うたびに…それが学び 2

職員さんの子どもたちを一人の社会人に育てようとする強い気持ちを感じ取りました。

●学生時代から身につけたい「考動力」 3

教師として大切なことは「準備」「心構え」「情熱」。

●経験はイメージを変化させ，定着させるもの 3

中高免を取得する予定の私に小学校の宿泊学習のボランティアを勧められました。

●読書案内『先生はえらい』 4

あなたが「えらい」と思った人，それがあなたの先生なのです。常識破りの教育論。

●教員採用試験面接セミナー 4

●今後の予定 4

① 卒業生の実践報告会

② 京都教師塾「出前講座」

コンプライアンスと危機管理

副センター長 岩渕 信明

夏の休暇を利用して，かつて新聞社に勤めていた友人と旅行をしました。そこで共通の話題になったのが「コンプライアンスと危機管理」です。

簡単に言えば，新聞に載ってしまわないようにするための意識と判断です。「このようなことで新聞に載るのですか。」とか，「新聞に載ってえらいことになった。」「こんなはずではなかった。」と驚く人が多いのです。

教員に限らず，どのような職業に就くにしても，事件を起こしたり巻き込まれたりして新聞紙面を賑わせてしまうようなことは避けたいものです。

社会人は，常に法律や規則に従う法令遵守(コンプライアンス)が求められています。教職を選ぶ人の言動は，当然，子どもや保護者の信頼に応えられるものでなければなりません。信用を失墜する行為は許されません。例えば，教員が，自分の車から，カバンとともに個人情報の入ったＵＳＢを盗まれたという報道を目にすることがあります。もちろん，他人のバッグなどを持ち去る車上狙いは許されることではなく犯罪です。しかし，不用意に子どもの個人情報の入ったものを車に置いておいたことが教員としての信用を失うことになるのです。教育実習生という立場であっても同様の責任があります。

この事実が新聞で報道されることによって，状況はさらに悪くなります。

このケースの場合，よく考えてみますと，個人情報の扱いについて，学校などで規則やきまりのようなものがあるのではないでしょうか。こうしたきまりを守る意識が弱かったということです。つまり，危うい落とし穴にはまってはいけないという危機管理意識が低かったのです。

社会人にはこのようなコンプライアンスや危機管理の意識が必要です。学生であっても，例外ではありません。

ここ数年，中学生・高校生の刑法犯検挙・補導の状況が教育の課題になっています。逮捕され，さらに再犯へと罪を重ねる生徒も少なくありませんが，「こんなことになるとは考えなかった。」と，嘆き悲しむ生徒も少なくありません。

教員を目指す学生の皆さんは，教科教育法などで，「問題解決的な授業を進め，子どもに問題解決力や考える力を付けること」を学んでいます。問題解決的な授業を進めながら，問題意識をしっかり持ち，解決のための情報をいろいろな方向から集め，それを吟味し，筋道立てて考える力を育てなければなりません。そのことによって，結果を予測する力や，判断力などを身に付け，状況を見誤ることのない子どもを育てていくことができるのです。

子どももそうですが，自分自身もそのような考える力を持った社会人に育たなければならないということです。

「これは？」と思ったら来室を

教職支援センター 教職アドバイザー 馬場 信行

平成24年度教員採用選考試験が,今年も7～8月にかけて全国の都道府県・各都市で行われました。各教育委員会は,優秀な人材確保にしのぎを削っています。教員の定数増となったとはいえ倍率は毎年高い水準にあります。

そのような中,『先生になりたい』という夢・憧れから『ゼヒトモ先生になる』という目標に向かっている皆さんをさまざまな面からバックアップするのが教職支援センターです。

前回もお知らせしましたが,当センターは,教員免許取得に向けたサポート・豊富な資料・教職アドバイザーによるマンツーマンでの指導・相談・教職セミナー等を行っています。

「これは？」と思ったら,すぐ来室してください。

合格おめでとう

“自覚”と“覚悟”

滋賀県大津市立打出中学校　国語科教諭　　岡本　寛寿（おかもと　かんじゅ）
2010.3 文学科卒業

皆さんが教職を志望するにあたり，そこにはそれぞれ異なる動機や目標があることと思います。実際に教職に就くまでの道のりや価値観は，人それぞれ無数に存在するはずです。ここでは私の一意見として，現在教職を目指している，もしくはこれから目指そうとする皆さんへ，拙文ながらアドバイスをさせていただこうと思います。

タイトルの通り，私が学生の皆さんに持ち続けていただきたいのは，“自覚”と“覚悟”です。何か物々しい文言ではありますが，これさえあれば大抵の目標は達成できると思います。

“自覚”とは言い換えれば“わきまえ”です。学生と社会人の差は，おそらく皆さんが思う以上に大きいものです。私自身，頭でわかっていたつもりでも，講師の頃からその差を痛感しています。特に言動に関しては意識的な改善も必要でしょう。言葉遣い一つで子どもを傷つけたり，保護者の方々に誤解を与えたりと，“責任ある人間関係作り”の難しさを，身をもって知りました。多くの方々の信頼の上にこそ成り立つ職ですから，今のうちに普段の生活を一度振り返ってみるといいかもしれません。

“覚悟”とはそのままの意味です。「先生になりたい」という大きな夢を，「先生になる」という確かな覚悟に代え，諦めることなく継続的に行動することで，その目標は達成されるはずです。夢は語るだけでは決して叶いません。まず行動する覚悟を持ってください。

少し固いお話になってしまいましたが，この時代にわざわざ「先生になろう」と思う人は，きっと心のまっすぐな，とても素晴らしい人なのだと思います。私もいつの日かそんな皆さんと一緒に働かせていただくことを楽しみにしています。一緒に頑張りましょう。

貴重な経験

特別支援学校
2日間
社会福祉児童養護施設
5日間

出会う度に・・・それが学び　－ 介護等体験を終えて －

教育･心理学科　第3学年　鈴木　大己（すずき　だいき）

私は，特別支援学校に２日間と社会福祉施設の児童養護施設に５日間，介護等体験で行かせていただきました。初めは，介護等体験について漠然としたイメージしかありませんでした。実習に行く前の事前指導において，介護等体験に臨む心構えを教えていただきました。

そのなかで私にとって一番心に突き刺さるように入ってきた言葉は「かわいそうだと考えることは間違っている」「特別支援学校や養護施設にいる子どもたちは，かわいそうと思われるためにみなさんと会うわけではない。」というものでした。私は，その言葉を聞いて自分の甘さを感じさせられました。

実習させていただいて学んだことは，何よりも大人側(先生側)の子どもたちを見守る目の優しさです。そんなことは当たり前ではないかと思われるかもしれないが，そんな当たり前のことができているからこそ，子どもたちとの信頼関係が築かれていると感じました。そして，子どもたちのことで何かあったときは，すぐに職員さん同士で相談をして，解決する方法を話し合っておられるのも印象的でした。

介護等体験で出会った先生方は，子どもたちについて，何を考えるときもまず，この子はどうしたかったのだろうや何を伝えたかったのだろうということを考えておられました。そのことを実感したのが，児童養護施設に実習に行かせていただいた時です。何らかの事情で親が自ら育てることができなくなってしまったような子どもたちがいるところです。

だから，子どもたちの中には大人という存在について，反発的な姿勢をとる子や新しい環境のなかで適応しにくい子どももいます。そんな子どもたちの生活を支える職員さんは試行錯誤の連続の日々だと５日間を通して感じました。子どもたち一人ひとり，何かあった時の対応が違い，大人の考え方で物事を見るのではなく，それぞれの子どものそれぞれの状況にあった対応をされていると感じました。そして何よりも，職員さんの子どもたちを一人の社会人に育てようという強い気持ちをもって，子どもたちと向き合っておられる姿に学びました。

この介護等体験において，多くの先生方や子どもたちに出会いました。私は，いつも誰かと出会う度に，何か学べることがあると考えています。それは子どもたちも同様です。今回も多くの人と出会えたことが，私をまた一歩成長させてくれました。これからも人との出会いを大切にしていきたいです。

学生時代から身につけたい「考動力」

小松大谷高等学校常勤講師　定舎　圭祥（じょうじゃ　けいしょう）
2011.3大学院修士課程 真宗学専攻 修了

教諭になる！
着実な講師経験の積み上げの中で

私は今年度より石川県の小松大谷高等学校に社会科の講師として任用されました。４月から現在に至るまでの約５か月間，実際に教壇に立ち，感じたことをみなさんに伝えたいと思います。

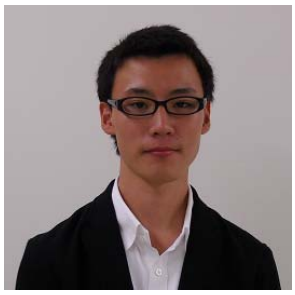
私は今年度は常勤講師として任用されましたが，実際に教壇に立つと「教諭」も「講師」も同じ一人の教員です。また，教員以外の職であればたいていの場合初めは研修期間がありますが，教員は初めから一人前の教員です。赴任したそのときから「先生」となります。ベテランの先生方と同じように授業を任され，校務を任されます。大切なことは，「準備」「心構え」「情熱」であると思います。早め早めに準備をし，それをやるという熱意がとても大切であると思います。また，自ら考え，動くという「考動力」が大切です。言われてからではなく，自らです。これは学生である今から意識してすればいつの間にか自然に身に付くのではないでしょうか。また，私は教えるという立場ではなく，確かに教えるという立場であるとは思いますが，「共に学び，成長する」ということを意識しています。生徒と共に学校生活を送っていると，逆に教えられることがたくさんあります。

まだまだ感じたことは書ききれないくらいあります。大谷大学での学びを大切にし，いろいろな経験をし，悩み，苦しみ，笑い，楽しみ，成長してください。大きな可能性を秘めているみなさんに，同じ教員として会える日を楽しみにしています。

経験はイメージを変化させ,定着させるもの

仏教学科　第2学年　田村　侑京（たむら　うきょう）

小学校の子どもたちの様子を知ることも大切だ



私は中学校と高等学校の社会科の先生を目指しています。２年生になって，本格的に採用試験の準備とボランティア活動を始めようと決めた私は，教職アドバイザーの先生に相談に行きました。

ボランティアについては，授業の関係で週末の土日に限られます。アドバイザーの先生は「中学校・高等学校でのボランティア活動も大事だが，小学校での体験も価値があるよ。」と言われ，京都市立池田東小学校の宿泊学習のボランティアを勧められました。私は子どもとの接し方など，いろいろ得られると思い，早速応募しました。

事前に池田東小学校に日程や活動内容などの確認のため訪問しました。その時，教頭先生から気楽にやってくださいと言われましたが，当日の朝，現場に向かう時からすでに緊張して心臓がドキドキしていました。

緊張がようやく解けたのは「花背山の家」で児童の前で挨拶の後に行った「アスレチック」と「フライングディスク」を済ました時からです。

夕方の野外炊飯では児童一人ひとりが分担して野菜を切ったり，お米を研いだりしていました。食事が終わり後片づけの時に，先生が一人の児童に注意していました。。その子はみんなが分担してお皿を洗ったり，掃除したりしている時に何もせず座っていたからです。

児童たちの就寝後，一日の反省会をもたれました。その中で，私は児童たちが班活動を通して，指示をしっかり聞いてみんなで協力することの大切さを学ばせることの難しさと重要性を学びました。勝手な行動をとったりや指示を聞かないことが，周りに大きな迷惑をかけたり，また重大な事故につながったりするのだなと，先生が注意した時の状況をもう一度思い出しながら感じました。

二日目の「登山」では，険しい山道を経て，頂上に着いた時にはさわやかな風を感じながら，児童たちと景色を眺めつつ昼食を取りました。途中で雨が降り出しましたが，最終目標地にたどり着いたとき，樹齢を重ねた「三本杉」の大きさと神々しい雰囲気に感動しました。今まで経験した山登りとは違い，児童に目を配りながら，山道を歩き抜くことは厳しいものがありました。

私はこの二日間の活動を通して子どもたちと接し，多くのことを学びました。子どもへの目配りや指示の仕方など，具体的にイメージにすることができました。

今後も様々なボランティア活動に参加し，教員になるための経験を積み上げていきたいと考えています。

■ 今後の予定

① 京都教師塾「出前講座」

・日　時　　11月21日（月）14:40～16:10
・会　場　　5203教室
・参加対象　教育・心理学科 第1学年

京都教師塾「出前講座」グループ討議
2010・12・22

教師として求められる資質や実践的指導力を付けるため，各教育委員会は教員養成に積極的に取り組んでいます。京都市の「京都教師塾」は他府県受験者にも門戸を開いています。その体験版です。迷うことなく，まず参加してみましょう。

② 卒業生の実践報告会 ー先輩からのアドバイスー

・日　時　　11月30日（水）18:00～19:30
・会　場　　5203教室
・参加対象　教職を目指す全学年の学生

卒業生の実践報告会　2010・12・8

教員採用選考試験に合格し，現在教員として活躍している本学卒業生から，自らの採用選考試験への取組を紹介していただきます。教職を目指す学生にとって，有益な体験談が聴けるはずです。

教員採用試験面接セミナー
9月14日（水）・16日（金）に開講しました。

10ヵ月後に迫った採用選考試験に向けて，面接試験の受け方やポイントなどについての講義と個人面接を実際に行いました。本格的な受験態勢に入ろうとしている3年生にとって，受験生としての自覚を促すよい機会となったようです。

採用選考試験において，人物重視や実践力重視の傾向から，面接試験のウエイトが増してきています。

単なる受け応えの練習やハウツー１点張りはなく，教育課題や子どもたちの実態を踏まえ，自らのボランティア経験や教育実習などで学んだことなどをもとに**自分の言葉で語る**ことが大切です。

年明けの2～3月には，再度面接セミナーを開く予定です。今回は16名の参加でした。次回はさらに多くの参加を期待しています。

「笑顔と若さを前面に，ありのままのの自分を出そう」　講義する馬場信行アドバイザー。

■ 読書案内「先生はえらい」

内田　樹 著　ちくまプリマー新書
哲学科 第1学年　服部福子

『先生はえらいのです。たとえ何ひとつ教えてくれなくても。えらいと思いさえすれば学びの道はひらかれる』
（内田　樹）

あなたは上の文章の意味がわかりますか？何ひとつ教えてくれなくても先生はえらいとは，どういう意味なのでしょうか。

あなたは今，尊敬できる先生がいて，何の気後れもためらいもなく「先生はえらいです」と言い切ることができるでしょうか？そんなことができたら，あなたのものの見方，感じ方，考え方もずいぶん変わるだろうし，さらに豊かな人生がそののち展開すると私は思います。私は高校3年生の頃に「この人は私の人生の師だ！」と言い切れる先生に出会いました。進路相談などを経て，あらゆる物事への捉え方が180度変わりました。

この本の著者，内田樹氏はほとんどの方は「先生はえらい」と言い切れるような「人生の師」にはまだ出会っていないといいます。「いい先生」というのはあらかじめ存在するのではありません。そして「どういう条件を満たす先生がえらいのか」「先生はこれこれの社会的機能を果たしているからえらいのである」と論証するのではありません。あなたが「えらい」と思った人，それがあなたの先生なのです。先生を目指す私たちにとって，「人生の師」とはあって然るべき存在です。

「本当の学びの主体性」とは何なのでしょうか？本書では，恋愛と学び，沈黙交易，オチのない話などのあらゆる例をあげていき，人間関係の本質をつかみ取ります。本当に学びたいと思った人の前にだけ，その人の「人生の師」は現れるのです。なんでも根源的に考える，哲学的な一冊。だれもが幸福になれる，常識やぶりの教育論です。